

津波対策(3)

津波浸水想定について

平成23年3月11日に発生した東日本大震災による甚大な津波被害を受け、内閣府中央防災会議では、新たな津波対策の考え方を平成23年9月28日に示しました。

想定される津波

最大クラスの津波(L2津波)

- 津波レベル
発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす津波(東日本大震災の規模)。
- 基本的な考え方
 - 住民の命を守ることを最優先とし、住民の避難を軸とした総合的な対策を確立します。
 - 被害の最小化を目的とする「減災」の考えに基づいて、海岸保全施設等の整備、およびハザードマップの整備や避難路の確保を実施していきます。

比較的発生頻度の高い津波(L1津波)

- 津波レベル
発生頻度は高く(数十年から百数十年の頻度)、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波。
- 基本的な考え方
 - 人命、住民の財産の保護、地域経済の確保のため、防潮堤など海岸保全施設等を整備していきます。
 - 海岸保全施設等については、比較的発生頻度の高い津波高に対して整備を進めていきます。設計対象の津波高を超えた場合でも、効果が発揮できるような構造物への改良も検討していきます。

市内代表地点の津波水位予測

青森県日本海側沿岸に、最大クラスの津波をもたらすと想定される4つの地震が発生した場合の、津波水位および到達時間は、以下のように予測されています。

平成27年3月19日公表の資料を基にしています。

代表地点	津波断層モデル名	第一波		最大波		津波影響開始時間(分)
		津波水位(T.P.m)	到達時間(分)	津波水位(T.P.m)	到達時間(分)	
脇元	H24日本海	6.1	26	第一波が最大	同左	21
	F18_右側	7.4	19	第一波が最大	同左	17
	F20_隣接_LLRR	5.5	22	第一波が最大	同左	21
	F24_隣接_LLLR	6.4	26	第一波が最大	同左	22
磯松	H24日本海	5.4	26	第一波が最大	同左	21
	F18_右側	6.4	19	第一波が最大	同左	17
	F20_隣接_LLRR	5	22	第一波が最大	同左	19
	F24_隣接_LLLR	5.9	26	第一波が最大	同左	22
十三湖河口	H24日本海	4.1	26	4.3	48	20
	F18_右側	4.4	18	第一波が最大	同左	17
	F20_隣接_LLRR	3.5	23	3.9	43	20
	F24_隣接_LLLR	3.9	26	第一波が最大	同左	21

※津波水位(T.P.m)は、東京湾平均海面からの高さを表示しています。
 ※津波影響開始時間は、代表地点において初期水位から±20cmの変化が生じるまでの時間です。
 ※代表地点は海岸線から100m～500m程度沖合の地点です。

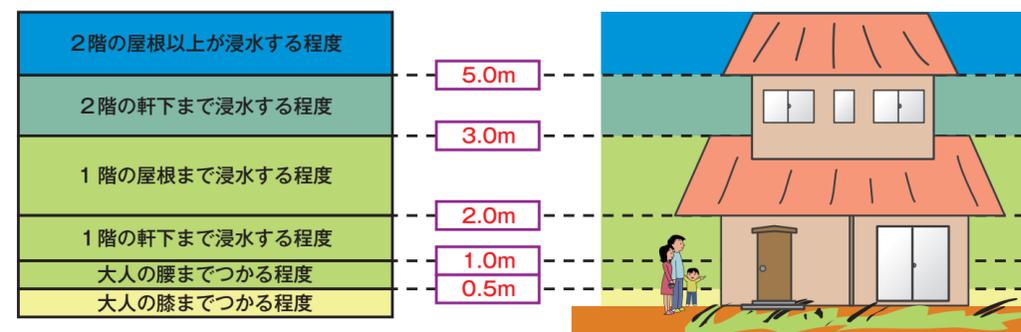
洪水ハザード情報について

水防法に基づき、洪水ハザード情報をマップに掲載しています。以下の情報を参考に、洪水時における対応についてあらかじめ確認しておきましょう。

1 説明

- 「五所川原市津波ハザードマップ」に表示している岩木川水系岩木川の水位周知区間について、水防法の規定により指定された浸水想定区域及び浸水した場合に想定される水深を表示したハザード情報です。
- この浸水想定区域などは、指定時点の河道の整備状況を勘案して、氾濫した場合の状況をシミュレーションにより予測したものです。
- この防災マップをご使用の際は、支川の氾濫、想定を超える降雨、内水による氾濫等を考慮していませんので、この浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や想定される水深が実際の浸水深と異なる場合がありますので十分注意しましょう。

● 浸水ランクの目安 前提となる降雨(流域の24時間総雨量279mm)



2 洪水情報の種類

洪水の危険性が高まった際に発表される情報

洪水注意報(気象庁)

● 洪水によって災害が発生するおそれがある場合、その旨を注意して行う。

洪水警報(気象庁)

● 洪水によって重大な災害が発生するおそれがある場合、その旨を警告して行う。

水位周知を行う河川

● 岩木川については、避難判断水位、氾濫危険水位が設定されています。これらの水位に達した場合、知事は関係市町村やマスコミを通じてお知らせします。

3 避難時の注意点

①安全で動きやすい服装を

- ・ヘルメットやずきん等で頭を保護する。
- ・裸足で避難しない。脱げにくい運動靴で避難する。
- ※長靴は水が溜まると動きにくくなるのではない!

②足元に注意

- ・水の深さに注意する。
- ※歩行可能な水深は一般的に男性70cm、女性50cm。水の流れる場合はさらに注意が必要!
- ・水があふれたときは、マンホールや側溝、石などが危険。杖や長い棒で進行方向を確認しながら歩くようにしましょう。

③隣近所で声を掛けあって避難

- ・単独行動はしない。
- ・はぐれないようロープで互いの体を結んで流されないようにしましょう。

④要配慮者の安全確保

- ・病人や高齢者などは背負って避難する。
- ・子供は大人が手をつないで避難させる。その際、浮き袋を付けるようにしましょう。

